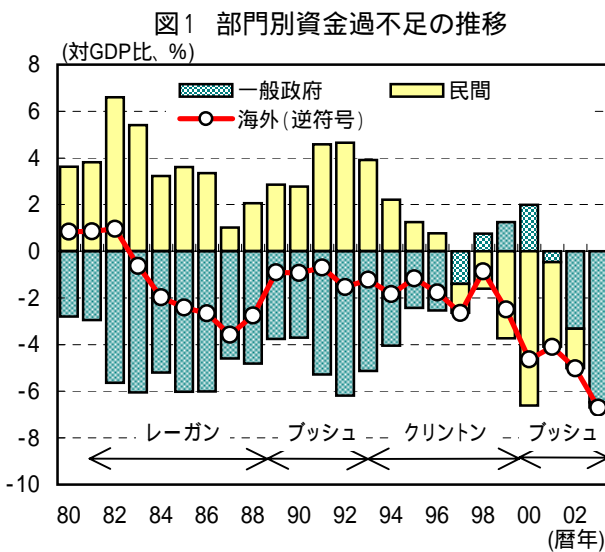


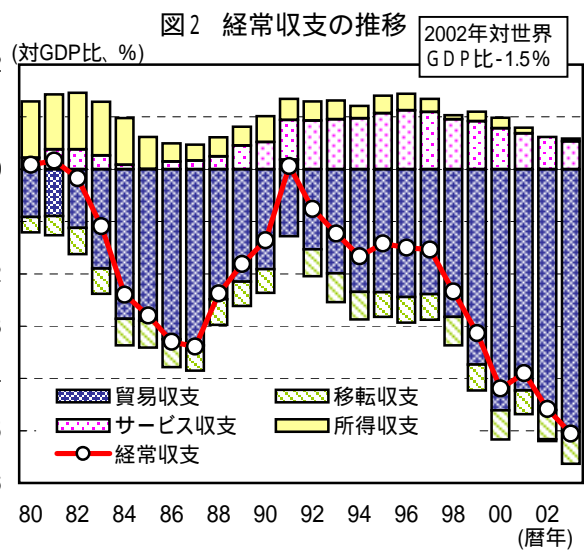


米国の双子の赤字～80年代前半との比較～（1）

- ・このところ80年代前半(レーガン政権期)にも喧伝された米国の双子の赤字懸念が再び広まりつつある。
- ・財政赤字は2003年に入り急速に膨らみ、対GDP比で80年代とほぼ肩を並べる水準に達した(図1)。98～2000年の経常収支赤字は民間部門の赤字(家計部門の貯蓄不足)によって生じていたが、2001年以降は80年代と同様に財政赤字要因が大きくなっている。
- ・経常収支赤字の対GDP比は2003年には5%超となる見通しである(図2)。これは80年代前半の水準をも上回っている。
- ・米国を巡る貿易構造をみると(図3)、80年代前半と比べるとアジア地域からの輸入が増大しており、貿易収支に占めるアジアの影響力が増している。
- ・経常収支の赤字基調を受け、対外純資産残高は80年代後半にマイナスに転じ、純債務の累増が続いている(図4)。その結果所得収支も2002年には赤字に転じ、経常収支赤字をさらに増加させている。

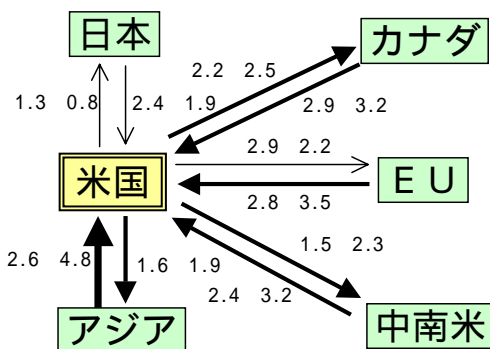


(備考)1. 米連邦準備制度理事会“Flow of Funds Accounts”、米商務省“Survey of Current Business”により作成。
2. 2003年は第3四半期までの値(季節調整値)。
3. 海外部門の資金過不足の逆数は図2の経常収支と概念上一致するが、計測上の誤差等により両者は必ずしも等しくならない。

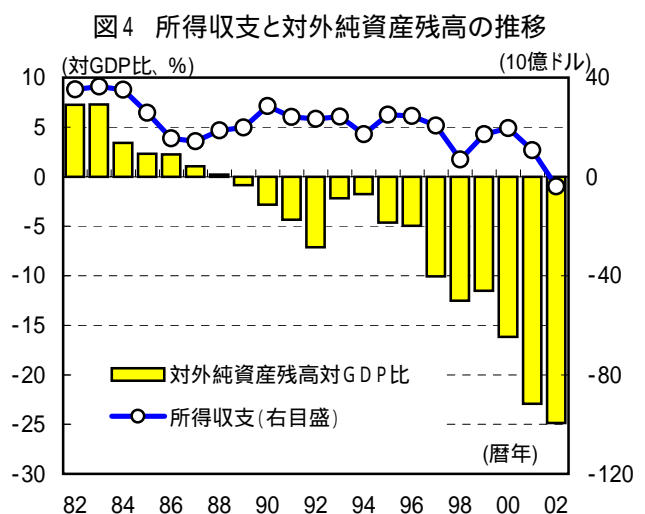


(備考)1. 米商務省“Survey of Current Business”、IMF資料により作成。
2. 2003年は第3四半期までの値(季節調整値)。

図3 対世界輸出(輸入)合計比の推移(83年 02年)



(備考)1. IMF“Direction of Trade Statistics”により作成。
2. 数値は83年および2002年の世界輸出(輸入)合計に占める割合。83年から2002年にかけて割合が上昇した関係は太線矢印で表示。
3. アジア地域には日本は含まれない。



(備考)1. 米商務省“Survey of Current Business”により作成。
2. 対外純資産残高は市場価格表示で暦年末値。

【調査部(経済調査担当) 中村 純一、蜂谷 義昭】

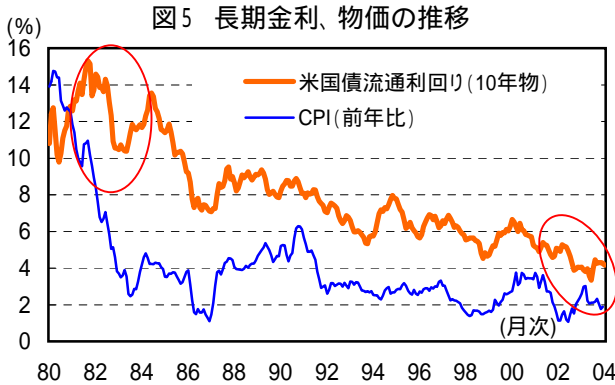
お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp

米国の双子の赤字～80年代前半との比較～(2)

- ・長期金利は現状低金利政策の下で低位に抑えられている(図5)。これはインフレ懸念に対応して金利上昇を容認した80年代前半とは異なる。
- ・その結果、為替レートは現在ドル安へと向かっている(図6)。これもドル高となった80年代前半とは異なっている。
- ・経常収支赤字の拡大に伴い資本流入が増加しているが、足もとでは海外の民間部門からの資本流入が細り、海外の公的部門からの資本流入(米国債)が目立っている(図7)。
- ・今後経常収支赤字と民間資本流入のバランスを維持するには、財政・金融政策に何らかの修正が必要であると考えられる。

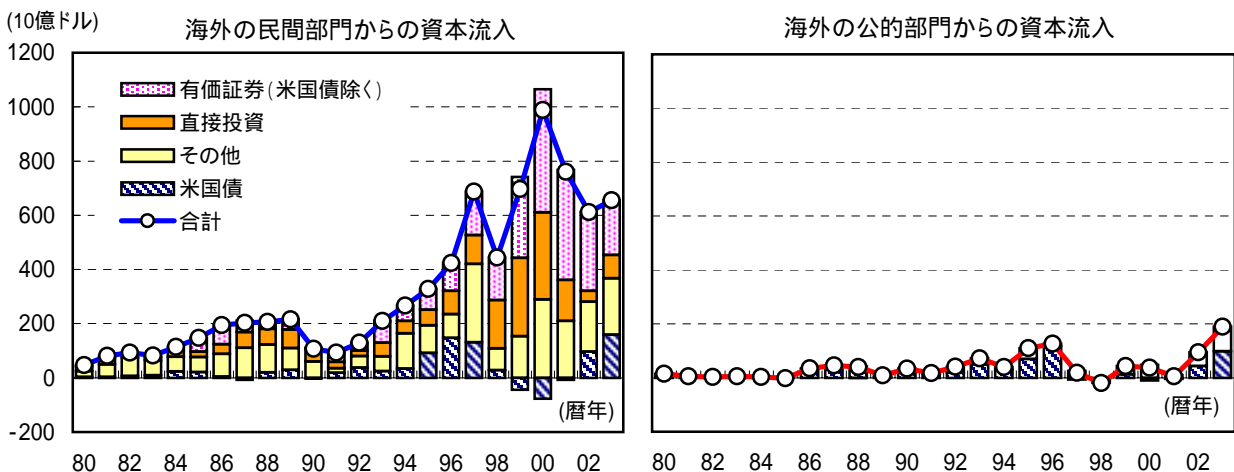


(備考)DRIデータベースにより作成。



(備考)IMF "International Financial Statistics" により作成。

図7 海外からの民間・公的部門別資本流入(グロス)



(備考)1. 米国商務省 "Survey of Current Business" により作成。
2. 2003年は第3四半期までの値(季節調整値を年率換算)。

図8 双子の赤字～80年代前半と現在との共通点・相違点

| 共通点 | 相違点(80年代前半 現在) |
|---------------|--|
| 財政赤字による経常収支赤字 | 金利(インフレ懸念による高金利 デフレ警戒の低金利) 為替レート(ドル高 ドル安) 主たる貿易赤字国(日本 中国を含むアジア諸国他) 対外純資産(債権国 債務国)と所得収支(黒字 赤字) |

[調査部(経済調査担当) 中村 純一、蜂谷 義昭]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp